

専攻主科目名

腎臓病学(ちば)

◆問合わせ連絡先 担当：第三内科学講座 腎研究室

E-mail Itou.takafumi.ax@teikyo-u.ac.jp

TEL 0436-62-1211 (内線:2010)

HP(研究室・診療科) <https://www.teikyochiba-nephrology.com/>



入院患者カンファレンス・病棟回診
(毎週火曜日)

◆研究室・講座・医局等の紹介

1. 当講座の沿革

帝京大学ちば総合医療センター腎臓内科の歴史は、1986年に帝京大学市原病院が開院した際における、第三内科学講座の腎グループとしての開講に始まります。教授1名、助教授1名、助手2名の計4名体制で開講し、一時期は医局員9名体制まで発展しました。

2017年5月、福島県立医科大学 腎臓高血圧内科より寺脇博之が第二代腎内教授として着任し、帝京大学附属病院からの支援スタッフ(助手)2名の着任を得て、腎臓内科は新体制を迎えました。病院教授として着任した吉村和修を含む常勤4名体制で腎生検・血液透析導入(バスキュラーアクセス造設を含む)に関する膨大な近隣からの需要に対応しました。

2018年度には腹膜透析療法を本格的に開始。2019年度には新規スタッフの更なる加入とともに、新規予約紹介患者数(急患除く)は年間294名、新規透析導入患者数は年間115名(千葉県内で最多)にまで増加。南総地区、そして千葉県における中心的な医療機関としての実績を順調に重ねていきました。

2020年度には新たに4名(ローテーター含む)の新規スタッフが加入し、当講座は常勤9名体制となりました。2020年の新規透析導入患者数は144名と前年よりさらに増加(千葉県内最多:うち腹膜透析は22名)し、年度内に通算での腹膜透析導入数(他院からの導入のみの依頼は除く)は50名を超えました。

2021年度には、4月より日本医科大学 リウマチ膠原病内科より小林政司が准教授として着任。腎炎と膠原病を専門とする小林の加入により、当講座の診療・研究体制は更なる厚みを加えました。なお同年には初めての「帝京ちば育ち」(帝京ちばで2年間の初期研修を修了)の新規スタッフを当講座に入局しました。2022年度には、10月にさらに2名の新規スタッフが加入。開講37年目に当たる2023年(令和5年)4月、寺脇博之が聖路加国際病院の臨床検査科部長として異動し(客員教授として継続して在籍)、島根大学医学部附属病院 腎臓内科から伊藤孝史が第三代腎内教授として着任、さらに2名の新規スタッフも加入し、総勢10名となり講座の更なる発展が期待される状況です。

3. 当講座のアピールポイント

1. 豊富な臨床経験

千葉県の南半分における唯一の大学病院として、腎炎・CKDから血液浄化・血液透析・腹膜透析に至るまで、あらゆる腎関連項目に関する症例を経験することが出来ます(年間入院患者数343名)。また、腎生検・内シャント造設・腹膜透析カテーテル留置・内シャント拡張術(PTA)といった、いわゆるインターベンショナルネフロロジーにも習熟することが出来ます。

2. 専門医への最短ルート

当講座は、日本内科学会はもちろん日本腎臓学会・日本透析医学会・日本高血圧学会・日本アフェシス学会の教育認定施設でもあり、総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医・高血圧専門医・アフェシス専門医を取るための最短で十分な経験を積むことができます。

3. 医学博士号

大学院へ入学して、あるいは臨床業務を継続しながら、医学博士号(Ph.D.)を取得することができます。Ph.D.は、国内外でのアカデミアで勝負するには必須の資格であり、臨床の最前線に出ていく医師にとっても強力な社会的信用となります。



4. 学会活動の奨励

最新の標準医療を提供する上で、自らの知識を常にアップデートする手段としての学会活動はきわめて重要です。当講座では、腎臓学会・透析医学会を中心とした国内外における関連学会・研究会への積極的な参加を奨励・援助いたします。

5. 豊富なキャリア・パス

当講座の大学院生・後期研修医およびスタッフの経験後、帝京大学の学是「自分流」にしたがった、多岐にわたるキャリア・パスの選択が可能です。具体的には以下のようなキャリア・パスが選択できます。

- ✓ 地域での開業: 帝京ちば総合医療センターの診療圏である千葉県中南部には、当講座出身である数多くのOBの先生方がおられますので、そういった先生が責任者を務められている医療機関への就職が容易です。また新規開業に関してもスムーズな病診・病病連携が可能です。
- ✓ 専門医としてのステップアップ: さらなる臨床経験を積むための、他施設における腎臓内科での「武者修行」を、積極的に支援します。
- ✓ アカデミアでのステップアップ: 当講座の教員(助教・講師・准教授)としての、帝京大学を含む大学医学部や研究機関における上級職への更なるチャレンジを支援します。

